

Peer Talks Seminar Series with Student Researchers

学生による研究初学者向けのセミナーシリーズを始めました！

同年代の学部生や大学院生などのきわめて若手の国内外の研究学生が講師となるセミナーシリーズです。研究未経験者の方も気軽にご参加・ご質問してください。(研究内容はもちろんですが、それ以外にも、学生で研究を始めるとは？ 学部学生や修士学生目指す研究像とは？ 研究とその他の活動の両立はどうやっているか？ などなど)

対象者：学部生・大学院生（特にSRP学生や研究室への参画を考えている学部生の皆さん）。もちろん専門家も！

日時：2025年 11月 17日（月） 18:00 ~ 20:00

場所：4号館 2階 210会議室 Language: Japanese（日本語）

第1 演者 高野 俊 先生 慶應義塾大学 医学部 6 年生
(解剖学教室・仲嶋一範 研究室)



タイトル：アストロサイトが脳をつくる仕組み

アストロサイトはグリア細胞の一種で、シナプスの調整や脳血液関門の形成等、脳機能に不可欠な役割を担っている。しかし、19 世紀にその存在が発見されて以降、アストロサイトの発生過程は未だ明らかになっていない。本講演ではscRNA-seq解析、遺伝子編集、タイムラプスイメージング等で得られたアストロサイトの移動に関する最新知見について概説する。“進化の最高傑作”ともいわれる脳がどのように作られるのか？その一端をアストロサイトから議論したい。

第2 演者 加藤 玖里純 先生 慶應義塾大学 医学部 6 年生
(慶應大・再生医療リサーチセンター・岡野栄之 研究室)



タイトル：基礎・臨床一体型研究による孤発性筋萎性側索硬化症(ALS)の病態解明と治療法探索

当センターは「治せる未来を創り出す」を理念に掲げ、これまで有効な治療法のなかった難病の克服に挑んでいる。筋萎縮性側索硬化症(ALS)は、運動ニューロンの変性と脱落を特徴とする神経変性疾患であり、その病態の多くはいまだ謎に包まれている。特に、患者の約9割を占める孤発性ALSでは、明確な原因遺伝子が同定されておらず、病態解明と治療法開発の大きな障壁となってきた。本講演では、孤発性ALS患者由来人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた基礎・臨床一体型のmulti-omics解析によって明らかとなった孤発性ALSの病態と新たな治療戦略への展望を紹介する。疾患の分子基盤を解き明かし、その知見を治療へと還元する“Translational/Reverse Translational Research”として展開するALS研究の最前線を概説する。

次の演者はあなたかもしれません！
(講師を募集します。自薦他薦問いません。)

お問い合わせ先：石川 充（藤田医大・ICBS・神経再生・創薬研究部門）
(内線 9573、✉ mitsuru.ishikawa@fujita-hu.ac.jp)